

平成28年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第64回総会（平成28年6月9日～11日）
会場：神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル
会長：荒川創一（三田市民病院）
2. 第63回東日本支部総会（平成28年10月26日～28日）
会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
会長：徳江 豊（群馬大学医学部附属病院感染制御部）
3. 第64回西日本支部総会（平成28年11月24日～26日）
会場：沖縄コンベンションセンター
会長：青木洋介（佐賀大学医学部附属病院感染制御部）
4. 本年関連国際学会として
16th Asia Pacific Conference on Clinical Microbiology and Infection
平成28年11月30日～12月3日（メルボルン）

B) 会務

1. 年度末正会員数 7,754名
年度末賛助会員数 25団体、団体会員数 140団体
2. 平成28年度評議員会は平成28年6月9日に、同定期総会は平成28年6月10日に神戸国際会議場で開催された。
3. 新評議員（平成28年4月～平成29年3月）
東日本支部7名（現在225名）
川名 敬（日本大学医学部産婦人科学分野）
中南 秀将（東京薬科大学 薬学部病原微生物学教室）
望月 敬浩（県立静岡がんセンター薬剤部）
三木 誠（仙台赤十字病院呼吸器科）
諸角美由紀（慶應義塾大学医学部感染症学教室）
矢野 晴美（筑波大学医学医療系水戸協同病院グローバルヘルスセンター）
横山 雄太（慶應義塾大学薬学部実務薬学講座）

西日本支部4名（現在192名）
植田 貴史（兵庫医科大学病院感染制御部）
酒井 義朗（久留米大学病院部薬剤部）
中野 竜一（奈良県立医科大学微生物感染症学講座）

山本 和子（長崎大学病院第二内科）

4. 理事会6回開催

平成28年5月、6月（2回）、8月、11月、平成29年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 舘田一博）

・編集委員会 6回開催

・編集状況

平成28年 第64巻3号～6号

一般誌 4冊（掲載論文数24編）

平成29年 第65巻1号～2号

一般誌 2冊（掲載論文数13編）

その他編集中 2冊

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 松本哲哉）

・編集委員会 6回開催

・編集状況

平成28年

Vol. 22 No. 4～12（掲載論文数 129編）

平成28年

Vol. 23 No. 1～3（掲載論文数 37編）

・投稿規定の変更を行った。

・JIC Award受賞

林 直樹会員（京都薬科大学微生物・感染制御学分野）

「The *pilT* gene contributes to type III ExoS effector injection into epithelial cells in *Pseudomonas aeruginosa*」

(Vo.22 No. 4 p.216～220)

3) 用語委員会（委員長 舘田一博）

・抗菌化学療法Web用語集の用語の整理を行った。

・新規抗ヘルペスウイルス薬（amenamevir）、新規フルオロキノロン系抗菌薬（lascufloxacin）、注射用セファロsporin系抗生物質（cefiderocol）の略語について検討を行った。

2. 学術委員会（委員長 岩崎博道）

・学術奨励賞受賞者

第64回総会

名木 稔（国立感染症研究所真菌部）

「*Candida glabrata* の細胞外ステロール取り込みが抗真菌薬感受性、病原性に及ぼす影響」

田寺加代子（広島大学院内感染症プロジェクト研究センター）

「臨床検査センターにて CRE スクリーニングを免れたステルス型 CPE の解析」

日本化学療法学会雑誌 第 64 巻 6 号 p. 791-795

大槻英男（我孫子東邦病院泌尿器科）

「年齢により区分した急性単純性膀胱炎の分離菌と薬剤感受性の検討」

Journal of Infection and Chemotherapy vol.22 (4) p. 216-220

林 直樹（京都薬科大学微生物・感染制御学分野）

「The *pilT* gene contributes to type III ExoS effector injection into epithelial cells in *Pseudomonas aeruginosa*」

3. 学会賞選考委員会（委員長 徳江 豊）

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の候補者について検討し選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：渡辺 彰（東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発寄附研究部門）

研究テーマ：「抗インフルエンザ薬の臨床開発並びにインフルエンザ感染症対策の推進」

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：河野正充（和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

研究テーマ：「肺炎球菌の宿主間の伝播におけるボトルネック効果の解明」

4. 国際渉外委員会（委員長 川名明彦）

・関連国際会議として、平成28年11月30日～12月3日にメルボルンでAPCCIDが開催され、当学会との共催シンポジウムを行った。

・ICC 2017（台湾）で行う当学会との共催シンポジウムについて検討を行った。

5. 臨床試験委員会（委員長 二木芳人）

製薬企業からの開発相談を行った。

6. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

当学会が設定している抗菌薬ブレイクポイントに関して、感受性分布成績、PK/PDデータ、実験成績、臨床効果などを参考に見直し作業を行い、フルオロキノロン系抗菌薬に関して新しいブレイクポイントを設定した。

7. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）

・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

年次テーマ：「医療関連感染のコンサルテーション対応：診断・治療・ASP」

第 38 回 平成 28 年 6 月 9 日（木）神戸国際会議場

第 40 回 平成 28 年 8 月 28 日（土）東京国際フォーラム

第 41 回 平成 28 年 10 月 26 日（木）朱鷺メッセ

第 42 回 平成 28 年 11 月 24 日 (木) 沖縄コンベンションセンター

- ・委員会を数回開催した。
- ・第 40 回の映像収録し、e-learning を作成した。
- ・平成 28 年 12 月 4 日 (日) に指導医試験を実施した。
- ・本年度指導医・認定医・認定歯科医師新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。
- ・平成 29 年 1 月 1 日付けで認定証を発行した。

新規申請：指導医 25 名、認定医 85 名、認定歯科医師 29 名

更新者：指導医 22 名、認定医 56 名、認定歯科医師 13 名

8. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会 (委員長 森田邦彦)

- ・抗菌化学療法認定薬剤師講習会を開催した

第 15 回 平成 28 年 5 月 27 日 (金) 栃木県総合文化センター

第 16 回 平成 28 年 9 月 16 日 (金) 同志社女子大学今出川キャンパス

- ・認定薬剤師試験を 29 年 2 月 5 日 (日) に実施した。
- ・3 月 1 日付で認定薬剤師 (新規申請者 93 名、更新者 85 名) を認定した。

9. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会 (実務委員長 渡辺 彰)

1) 第 4 回 (2012 年)

- ・呼吸器感染症 (6 回目・1236 株)

論文執筆を終了し、Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) へ投稿した。

- ・尿道炎 (クラミジア) (2 回目・39 株)

成績を日本感染症学会 (2016 年 4 月・仙台)、日本化学療法学会 (2016 年 6 月・神戸) で報告した。論文は、2009 年に実施した 19 株の成績と合わせて JIC Vol.22 (9) に掲載した。

2) 第 5 回 (2013 年)

- ・皮膚科領域感染症 (初回・860 株)

論文を JIC に投稿した。(2016 年 12 月)

- ・歯科口腔外科領域感染症 (初回・726 株)

論文を執筆中である。(JIC に投稿する予定)

3) 第 6 回 (2014 年)

- ・呼吸器感染症 (7 回目・1,560 株)

44 薬剤の感受性測定を終了し、解析中。成績を日本感染症学会 (2016 年 4 月・仙台)、日本化学療法学会 (2016 年 6 月・神戸)、日本臨床微生物学会 (2017 年 1 月・長崎) で報告した。

- ・手術部位感染 (SSI) (2 回目・906 株)

37 薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書にまとめた。成績を日本感染症学会 (2016 年 4 月・仙台)、日本化学療法学会 (2016 年 6 月・神戸)、日本臨床微生物学会 (2017 年 1 月・長崎) で報告した。また、論文執筆を終了し、JIC へ投稿した。

4) 第 7 回 (2015 年)

- ・急性単純性膀胱炎 (2 回目・336 株)

全国 31 施設より送付された検体より 336 株を分離し、19 薬剤の感受性測定を終

了し、解析を行った。

- ・複雑性尿路感染症（3回目・843株）

全国34施設より843株を収集し、38薬剤の感受性を測定した。

- ・耳鼻咽喉科領域感染症（2回目）

全国53施設で2017年3月末まで検体を収集した。（目標1,000株）

5) 第8回（2016年）

- ・呼吸器感染症（8回目）

全国41施設で2017年3月末まで菌株を収集した。（目標1,000株）

- ・尿道炎（淋菌）（3回目）

全国43施設で2017年6月末まで検体を収集する。（目標200症例）

- ・尿道炎（クラミジア）（3回目）

全国43施設で2017年6月末まで検体を収集する。（目標200症例）

6) 第9回（2017年）

- ・実施領域を年2領域から1領域に縮小する。

- ・小児科領域感染症（初回）

全国約30施設が参加し、呼吸器感染症、敗血症、髄膜炎の原因菌約1,000株を

2017年3月から11月までに収集する。

7) VRE株の収集

- ・三学会合同リネゾリド適正使用推進委員会よりVRE株収集の依頼を受けた。

- ・収集期間は、2016年6月～2019年5月の3年間で、各年50株を収集し、感受性を測定する。現在、全国35施設が参加し、収集中。

8) ホームページの更新 (<http://www.3ssp.jp>)

- ・JICに論文が掲載された耳鼻咽喉領域、尿道炎（淋菌・クラミジア）のデータを掲載した。（2016年10月）

10. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 宮下修行）

- ・収集されたレジオネラ菌（58株）に対し、各種薬剤のMICを東邦大学にて測定した。
- ・2006年12月～2011年11月までに当学会へ登録された症例のうち、本委員会で検討した176例についての結果を第64回西日本支部総会で報告した。

11. 呼吸器感染症臨床評価法の改訂委員会（委員長 柳原克紀）

呼吸器感染症の臨床評価法（第二版）に関するアンケート調査内容を検討した。

12. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

「抗菌薬TDMガイドライン改訂版」を日本化学療法学会雑誌64巻3号（5月）に掲載し、冊子版およびポケット版を6月に発行した。なお、A4版冊子は11月に第2版を発行した。

13. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 青木信樹）

菌性感染症のガイドラインを日本化学療法学会雑誌64巻4号に掲載し、腸管感染症および菌性感染症のJAID/JSC感染症治療ガイドラインの英語版をJournal of Infection and Chemotherapyに投稿した。

14. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 二木芳人）

MRSA 感染症の治療ガイドライン改訂版 2017 を作成し、パブコメを求め、5月発行の和文誌に掲載する準備を行った。

15. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会
（委員長 竹末芳生）

日本外科感染症学会と合同で「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」を作成し、日本化学療法学会雑誌 64 巻 2 号（3 月）に掲載し、冊子版およびポケット版を 4 月に発行した。

16. 小児用キノロン薬適正使用推進委員会（委員長 渡辺 彰）

- ・感受性サーベイランスの測定を行った。
- ・トスフロキサシンに関する実態調査のアンケート結果をまとめ、結果を第 63 回東日本支部総会で報告した。

17. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ（委員長 舘田一博）

平成28年12月24日（土）に東京国際フォーラムで、第4回目となる「耐性菌シンポジウム2016 –1年を総括して来年に備える–」を開催し、約280名の参加があった。また、当学会ホームページに講演内容を動画で掲載した。

開会の挨拶 河野 茂（長崎大学）

第一部： One Healthの視点で考える耐性菌問題

司会： 三嶋廣繁（愛知医科大学）、岩田 敏（慶應義塾大学）

1. 人： 院内感染対策サーベイランスから見えてくる事実
柴山恵吾（国立感染症研究所）

2. 動物：病院外で広がる耐性菌問題
田村 豊（酪農学園大学）

3. 総合ディスカッション

後藤直正（京都薬科大学）、柳原克紀（長崎大学）、藤村 茂（東北医科薬科大学）

第二部： AMRアクションプランに込められた思いと方向性

司会： 堀 誠治（東京慈恵会医科大学）、賀来満夫（東北大学）

1. AMRアクションプラン：その背景とポイント

大曲貴夫（国立国際医療研究センター病院国際感染症センター）

2. 医療現場に求められるアクション：今、我々にできること
大毛宏喜（広島大学）

3. 総合ディスカッショ

迎 寛（長崎大学）、竹末芳生（兵庫医科大学）、草地信也（東邦大学）

閉会のご挨拶：舘田一博（東邦大学）

18. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会（委員長 三嶋廣繁）

カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）による感染症の治療法について日本の現状を調

査中である。カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）による感染症の治療法について日本の現状を調査中である。

19. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

平成28年6月の第64回総会において臨床試験ガイドラインについてのシンポジウムを行い、平成29年2月9日には当委員会主催で、米国のAMR対策においてアクションプランの作成にも関わったニューヨーク大学のMartin Blaser先生をお招きしてAMR講演会を行った。

20. 8学会合同抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 二木芳人）

Antimicrobial stewardshipを日本で感染症専門医、感染症領域における専門・認定の薬剤師・看護師・検査技師等がチームを組んでどのように推進していくのか検討を始め、平成28年4月には抗菌薬の適正使用に向けた8学会提言「抗菌薬適正使用支援（Antimicrobial Stewardship；AS）プログラム推進のために－提言発表の背景と目的－」を厚生労働省、文部科学省の各大臣宛に提出した。また、「Antimicrobial stewardship programを実践するためのガイドライン（案）」の作成を行った。

21. 将来計画検討委員会（委員長 清田 浩）

- ・学術集会の演者、当学会主催の講演会の司会・演者等に関する謝金に関する内規を検討し、6月9日より施行した。
- ・当学会の慶弔に関する内規を検討し、5月8日より施行した。
- ・当学会の収支の健全化、学術的問題点および卒後教育について検討した。

22. 関連学会対策ワーキング（委員長 三嶋廣繁）

日本化学療法学会の医師会員を増加させることを目的として、関連学会との連携について検討を行い、合同シンポジウムの開催、感染症診療において各領域で問題となっている事項を解決するための合同委員会の設置に向けた準備を行うことを確認した。

23. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 吉田正樹）

2017年および2018年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

24. 特定費用準備資金検討ワーキング（委員長 清田 浩）

1) 薬剤耐性菌蔓延予防を目的とした社会啓発事業

12月24日に東京国際フォーラムで「一緒に考えよう耐性菌の問題：病院だけじゃない、食べ物もペットも・・・」と題して市民公開講座を開催した。また、当学会ホームページに講演内容を動画で掲載した。

司会：門田淳一（大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座）

渡辺 彰（東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発寄附研究部門）

はじめに

門田淳一（大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座/

公益社団法人日本化学療法学会前理事長)

1) 世界中で問題となる耐性菌

藤村 茂 (東北医科薬科大学薬学部臨床感染症学教室)

2) ペット、家畜を介して広がる耐性菌

田村 豊 (酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野食品衛生学)

3) 今、私達にできること

松本哲哉 (東京医科大学微生物学講座)

4) 新しい治療薬の開発を進めよう

館田一博 (東邦大学医学部微生物・感染症学講座)

終わりに

岩田 敏 (慶應義塾大学医学部感染症学教室)

2) 特定感染症全国サーベイランス事業に関する事業

- ・ 2015 年実施の「*Clostridium difficile* 感染症 “1 日” 多施設共同研究」のサマリーを和文誌 65 巻 1 号に掲載した。
- ・ 小児用キノロン系抗菌薬サーベイランスの感受性測定および適正使用に関するアンケート調査を実施し、アンケート結果については第 63 回東日本支部総会で委員会報告として発表した。
- ・ β ラクタム系薬耐性腸内細菌科細菌に関する多施設共同研究を実施した。
- ・ 尿路由来 ESBL 産生菌の ESBL の分子生物学的解析を実施した。

25. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会 (委員長 堀 誠治)

- ・ 9 月にロンドンで EMA-FDA-PMDA (ヨーロッパ-アメリカ-日本) の会談を行い、「臨床試験 (治験) - 製造販売後調査」の評価基準などの必要性を検討した。
- ・ 1 月 30 日に委員会を開催し、グローバルな臨床評価基準を作成する為、3 極での臨床評価における Gap を整理した。

26. 社会保険委員会 (委員長 迎 寛)

平成 30 年診療報酬改定について検討を行った。

27. 利益相反委員会 (委員長 河合 伸)

日本医学会の「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン改訂版」を参考にし、利益相反自己申告書の基準を一部改定する作業を始めた。

28. 研究倫理審査委員会 (委員長 木津純子)

研究倫理委員会の審査料および外部委員の謝金について検討した。

29. インфекションコントロールドクター (ICD) 制度

平成 28 年 12 月 認定者 48 名

(2) 平成28年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

平成29年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第65回学術集会（平成29年4月6日～8日）
会場：京王プラザホテル
会長：草地信也（東邦大学医療センター大橋病院外科）
2. 第64回東日本支部総会（平成29年10月31日～11月2日）
会場：京王プラザホテル
会長：河合 伸（杏林大学医学部総合医療学教室 感染症科）
3. 第65回西日本支部総会（平成29年10月26日～28日）
会場：長崎ブリックホール
会長：迎 寛（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学分野（第二内科））
4. 本年関連国際学会として
30th International Congress of Chemotherapy (ICC 2017)
平成29年11月24日～27日（台湾）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年6回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
 - ・6冊発行予定（65巻3～6号、66巻1～2号）
 - ・編集委員会を隔月開催する。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
 - ・電子版を12号、冊子版を2号合併号として6冊発刊予定。
 - ・編集委員会を隔月開催とする。
 - ・JIC賞の選考を行う。
- 3) 用語委員会
略語の申請の依頼があれば適宜、対応する予定である。

2. 学術委員会

学術奨励賞を選考する。

3. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

4. 国際渉外委員会

関連国際会議として、平成 29 年 11 月 24 日～27 日に ICAAC/ICC 2017 が台湾で開催される予定である。

5. 臨床試験委員会

依頼があれば適宜、対応していく予定である。

6. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

カルバペネム系抗菌薬のブレイクポイント見直し作業を実施し、発表する予定である。

7. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

- ・ 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定
年次テーマ：抗菌薬適正使用およびその推進 – Drive Ahead –
第 43 回 平成 29 年 4 月 6 日（木）京王プラザホテル
第 44 回 平成 29 年 5 月 28 日（日）東京国際フォーラム
第 45 回 平成 29 年 10 月 26 日（木）長崎ブリックホール
第 46 回 平成 29 年 10 月 31（火）京王プラザホテル
- ・ 委員会を数回開催予定
- ・ 1 日コースを映像収録し、e-learning を作成する。
- ・ 10 月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請締め切り
- ・ 12 月 指導医試験を実施する
- ・ 12 月 認定申請審査の委員会
- ・ 平成 30 年 1 月 1 日付けで認定

8. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- ・ 第17回講習会を日本TDM学会前日の平成29年年9月27日（金）に、国立京都国際会館において開催する予定である。
- ・ 第18回講習会を日本医療薬学会前日の平成29年11月2日に幕張メッセにて開催する予定である。
- ・ 認定薬剤師試験を実施し、認定を行う予定である。
- ・ 平成30年3月1日付けで認定証発行する予定である。
- ・ 薬剤師講習会用テキストの改訂作業を行う予定である。

9. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1) 第 4 回（2012 年）

- ・ 呼吸器感染症（6 回目・1,236 株）

論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に掲載する。

- 2) 第5回 (2013年)
 - ・ 歯科口腔外科領域感染症 (初回・726株)
論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に掲載する。
- 3) 第6回 (2014年)
 - ・ 呼吸器感染症 (7回目・1,560株)
論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に掲載する。
 - ・ 手術部位感染 (SSI) (2回目・906株)
論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に掲載する。また、追加解析を行い、Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に論文を投稿する。成績を ASM Microbe 2017 (6月・New Orleans) で発表する。
- 4) 第7回 (2015年)
 - ・ 複雑性尿路感染症 (3回目)
成績を報告書にまとめ日本化学療法学会、日本感染症学会、日本臨床微生物学会で報告する。また、論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に投稿する。
 - ・ 急性単純性膀胱炎 (2回目)
成績を日本化学療法学会、日本感染症学会、日本臨床微生物学会で報告する。また、論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に投稿する。
 - ・ 耳鼻咽喉科領域 (2回目)
検体の回収を終了し分離同定後、感受性を11月までに完了し、報告書にまとめる。
- 5) 第8回 (2016年)
 - ・ 呼吸器感染症 (8回目)
菌株の回収および感受性測定を9月までに完了し報告書にまとめる。
 - ・ 尿道炎 (淋菌) (3回目)
6月末で検体収集を終了し分離同定をおこない、感受性測定を12月までに完了する。
 - ・ クラミジア (3回目)
6月末で検体収集を終了し分離同定をおこない、感受性測定に向けて培養を行う。
- 6) 第9回 (2017年)
 - ・ 小児科領域感染症 (初回)
10月まで菌株の収集を行い、2018年2月までに感受性測定を完了する。
- 7) 2006年～2014年までに収集した約13,000株の感受性測定結果を菌種別の論文にまとめ Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に掲載する。
- 8) ホームページの更新を行う。

10. レジオネラ治療薬評価検討委員会

- ・ 収集されたレジオネラ菌 (58株) に対し、各種薬剤のMIECを東邦大学にて測定し、西日本支部総会で最終報告を行う予定である。
- ・ これまでに収集されたレジオネラ症全例の最終結果を論文化する予定である。

11. **抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会（委員長 河野 茂）**
「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」を公表する予定である。
12. **呼吸器感染症臨床評価法の改訂委員会**
 - ・これまで検討してきた臨床評価ガイドラインの検討結果を日本化学療法学会雑誌に投稿する予定である。
 - ・呼吸器感染症の臨床評価法（第二版）に関するアンケート調査を実施する予定である。
 - ・引き続き呼吸器感染症臨床評価法のガイドライン改訂の検討を行う。
13. **JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会**
 - ・敗血症および尿路感染症・男性性器感染症の JAID/JSC 感染症治療ガイドラインのパブコメを行い、和文誌に掲載して、英語版を Journal of Infection and Chemotherapy に投稿する予定である。
 - ・JAID/JSC 感染症治療ガイド 2017 の発行に向けて各項目の改訂作業を行う予定である。
14. **MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会**
MRSA 感染症の治療ガイドライン改訂版 2017 を和文誌に掲載し、冊子版を 6 月に発行する予定である。
15. **小児用キノロン薬適正使用推進委員会**
第 65 回学術集会における 65 周年記念事業において、小児用キノロン薬の使用実態アンケート調査と適正使用に関するサーベイランス調査について報告し、JIC 等に投稿する予定である。
16. **耐性菌感染症対策ワーキンググループ**
平成29年12月9日（土）に浜離宮朝日ホールで、「耐性菌シンポジウム2017 –1年を総括して来年に備える–」を開催し、当学会ホームページに講演内容を動画で掲載する予定である。
17. **多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会**
CREによる感染症に治療に関する多施設共同研究を実施するべく準備を進める。
18. **7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会**
平成29年2月9日に開催された「米国のAMR対策においてアクションプランについて」の講演会について報告を行う予定である。
19. **8学会合同抗微生物薬適正使用推進検討委員**
「日本においてAntimicrobial stewardship programを実践するためのガイドライン（案）」を完成させ、パブコメを求めて発行する予定である。
20. **将来計画検討委員会**
前年度に引き続き、当学会の収支の健全化、学術的問題点および卒後教育について検討する予定である。

21. 関連学会対策ワーキング（委員長 三嶋廣繁）

- ・日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会、日本性感染症学会、日本泌尿器科学会、日本小児感染症学会、日本呼吸器学会、日本骨・関節感染症学会、日本眼感染症学会、日本消化器病学会、日本外科感染症学会などと合同シンポジウム開催に向けた調査・検討を行う。
- ・日本性感染症学会と合同で HSV 診断法に関する Ad Hoc 検討委員会を設置して HSV 診断法について提言を作成して発表する。

22. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 吉田正樹）

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

23. 特定費用準備資金検討ワーキング

- 1) 薬剤耐性菌蔓延予防を目的とした社会啓発事業として市民公開講座を企画し、特定感染症全国サーベイランス事業に関する事業として下記の 3 事業を行う予定である。
 - ・侵襲性肺炎球菌感染症由来のムコイド型耐性肺炎球菌(PRSP)に関する研究
 - ・尿路・性器より検出される *Mycoplasma genitalium* の薬剤耐性遺伝子変異の全国サーベイランス
 - ・全国におけるグラム陰性桿菌を原因とする血流感染症のアンケート調査
- 2) 当学会設立 65 周年を記念して、第 65 回学術集会において、薬剤耐性菌慢性予防を目的とした社会啓発事業および特定感染症全国サーベイランス事業に関する成果の報告を行った。

24. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会

「薬剤耐性菌感染症を対象とした抗菌薬臨床評価ガイドライン」を作成する予定である。

25. 社会保険委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

26. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

27. 利益相反マネジメント委員会（委員長 吉田正樹）

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

28. 研究倫理委員会

研究倫理委員会の広報および審査を行う予定である。

29. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成 29 年 10 月 31 日